

令和7年度 研究推進計画

学校名 江田島市立大古小学校

学校長名 加藤 幸恵

1 研究主題・研究内容・方法等について

(1) 研究主題

他者と協働し、主体的に学び続ける児童の育成
～自律的で協働的な学びを促す教師の見取りと働きかけの充実～

(2) 主題設定の理由

本校は、令和2年度より自学（自律的な学習）をベースにした学習環境デザインの創造に取り組み、一昨年度は主に算数科を中心に全校で自学と協働的な学びを組み合わせた自学スタイルを確立してきた。自学スタイルの典型的な学習展開は、①課題の把握、②個別や協働の学習による理解、③説明課題による理解深化、④練習問題による習熟と評価である。「学びの責任は自身にある」という考えが自学のおおもとにあり、個別に最適な学習環境を整え、自己の行動を調整する力を養えるよう、それぞれの児童が学習進度、学習方法、誰とどこでといった学習環境を選択し自律的に学習を進めることができる学習デザインとなっている。そして、昨年度は発達段階に応じた自律的で協働的な学び（自学スタイル）の充実させるために研究を行った。低、中、高学年の段階に合わせた教師の見取りと働きかけチェックシートを作成し、授業作りに生かした。その際、これまで同様、習熟までを入れ込むとともに、新たに児童自身の学びの振り返りを授業内に位置付け、児童が見通しをもち、自分の学びを自分で行っていると実感できるようにした。また、学校と家庭とが連携し自律性を高める取組として選択制家庭学習やメディアコントロールなど取組を継続した。

これらの取組の結果、自学と協働的な学びを組み合わせた学習活動を継続してきたことにより、研究授業の検証や普段の授業から、教師の授業力や見取りと働きかけに関する技量はより発展していると考えられる。また、学習調整行動の意識調査からは、協働に関する項目は昨年度の得点とほぼ同様の水準を保ち、見通しに関する項目は上昇したことから、児童に自学スタイルが身に付いてきていると言える。しかし、児童の『同一化的（学習に価値を見出している）動機付けレベル』は昨年度より下回り、『外的調整（学習に報酬や褒めなどを求める）』が上昇したことが分かった。児童が自己選択できるための授業作りや振り返りの充実を図ったにもかかわらず、学習調整行動の質問調査の自己選択に関する項目「学習をどのように進めるかや、どこまで進めるかは、自分に任されていると感じる。」は肯定的回答が上昇しなかった。選択制家庭学習の取組においても児童が自分に合ったコースを保護者と話し合い選択できていない様子も見られている。これらのことから、児童は自分で学びを作っていると実感することができず、やらされていると感じているのではないかと考える。学力についても昨年度より低くなった学年もあり、課題が見られた。

今後は、児童が意欲的かつ自律的に学習できるように、様々な方法で児童の成長や課題を見取り、児童の実態に応じた働きかけを行うという教師のファシリテーション力を高める必要がある。また、児童が「できた」「分かった」をより実感できるように、選択制家庭学習や、発達段階に応じた自学スタイルの在り方などについても再考する必要がある。

(3) 研究仮説と研究内容

- ①教師が、様々な方法で児童の実態（「学びの3要素」を中心に）を見取り、
- ②それに応じた効果的な働きかけを授業内外で継続して行うことで、
- ③児童の学びに向かう力（同一化的動機付けレベル）が高まり、
- ④結果として、学力が向上するだろう。

【具体的な取組例】

- ①・レディネステスト、形成的評価プリント、タブレットドリルなどを活用して、児童のつまずきを分析する。
 - ・パフォーマンス課題や単元テストの結果から、児童のつまずきを分析する。
 - ・振り返りやノートの記述、学習の様子から、児童の学びに向かう意欲とその背景を分析する。
- ②・実態に合った問題やワークシートを準備したり、個別指導をしたりするなど、多様な指導手法を設定し、個別最適な学びの充実を図る。
 - ・挑戦する課題を複数用意したり、説明課題に取り組ませたりするなど、「自学スタイル」をベースとした自己選択と自己決定の場を充実させる。
- ③・選択制家庭学習や隙間時間の学習、放課後補充学習なども含め、「学ぶ意義や大切さ」について、教師が児童に語る。
 - ・よりよい学び方をしている児童の様子を、全体の場で価値付ける。
 - ・振り返り活動や協働学習を仕組み、他者との関わりの中で、自己を見つめたり分析したりする時間を確保する。

(4) 検証の指標

内容	指標	調査時期	R6 実績値	目標値
①②	教師の見取りと働きかけチェックシート 学習調整行動の質問紙（3年以上）	研究授業毎 4月／1月	平均 3.7 項目（9）3.20 項目（3）3.50 項目（1）（2）（7）の平均3.0	全項目昨年度以上 全項目3以上（4段階中）
③	自律的学習動機づけに関する調査（4年以上）	4月／1月	同一化調整 10.6pt	同一化調整 10pt 程度（維持）
④	単元テスト（年間の到達度の平均） 標準学力調査の結果	年度末 年度末	省略 省略	各学年前年度以上（同一集団比較） 各学年前年度以上（同一集団比較）

(5) 本校で育成したい資質・能力（本年度の重点は太線）

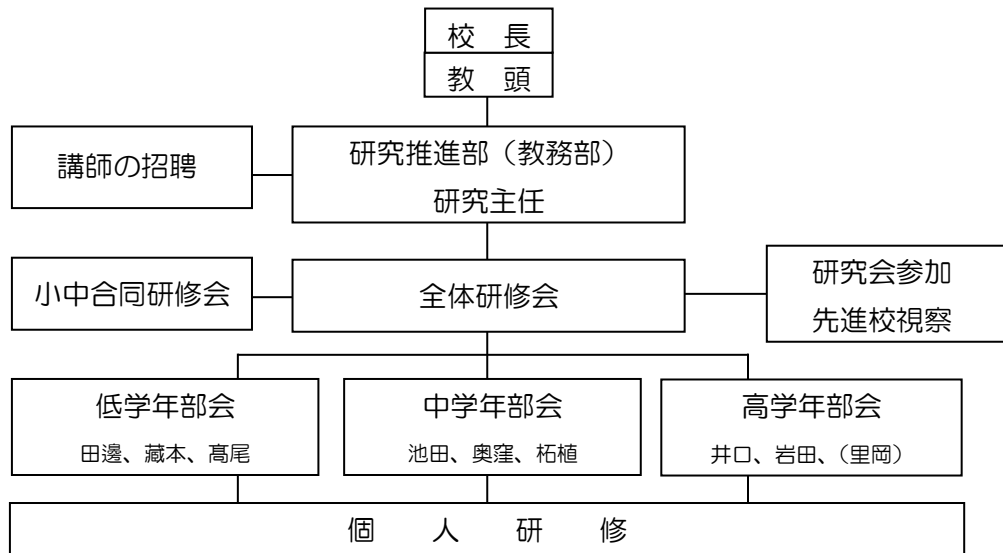
	観点	1・2年生	3・4年生	5・6年生
協働する力	自分を律する	ルールを守る・がまんする	自分で判断する・意識して自分をおさえる	特性を自覚して行動する
	自分を大切にする	自分の考えを伝える	わからないことはわかるまで追究する・相手にわかってもらうまで伝える	対等な立場で、互いのよさを生かして解決する・新しいものを生み出す
	他者を大切にする	どんな相手でも話を最後まで聞く	相手の「なぜ」や「わからなさ」を含め、言うことを受け止めて返す	
学びに向かう力	何事にも好奇心をもつ	経験を増やす	勧められたことはやってみる・よさを見つける	自分の興味を追究する
	嫌になっても目標に向かって粘り強く取り組む	励ましを受けながら最後までやり遂げる	目標に向けて嫌でも続ける	適切な目標を設定し、目標に向かって取り組む
	計画を立て遂行しつつ、状況の変化に応じて行動する	毎日の決められた課題を確実にする	1週間程度の期間の猶予がある課題について計画を立て遂行する	課題について計画を立て自主的に遂行する・臨機応変に対応する

2 校内研修計画

(1) 研修方法

- 理論研修、実践交流、研究授業を通して、教職員の研修を深める。
- 研究授業のための事前研修と事後研修を行う。

(2) 研究組織図



(3) 研修日程

月	日	曜	研修形態	研修内容
4	8	火	全体研修	研究推進計画
5	2	金	全体研修	第1回校内研修の事前研究（6年算数）
5	30	金	全体研修	第1回校内研修授業研究（6年算数）
5	28	水	全体研修	第2回校内研修の事前研究（4年国語）
6	18	水	全体研修	第2回校内研修授業研究（4年国語）
6	9	月	全体研修	第3回校内研修の事前研究（2年体育）
7	4	金	全体研修	第3回校内研修授業研究（2年体育）
8	29	金	全体研修	第4回校内研修の事前研究（3年算数）
9	22	月	全体研修	第4回校内研修授業研究（3年算数）
8	29	金	全体研修	第5回校内研修の事前研究（5年）
10	2	木	全体研修	第5回校内研修授業研究（5年）
10	8	水	全体研修	第6回校内研修の事前研究（1年算数）
11	7	金	全体研修	第6回校内研修授業研究（1年算数）
2	6	金	全体研修	研究の成果と課題について

太陽1組、太陽2組は、期間を決めて授業参観、交流を行う。

3 研究公開の予定

なし

4 研究構想図

